

動名詞の間違いやすい用法



1 動名詞の完了形：〈having + 過去分詞〉

13 I am sorry for **having kept** you waiting. 267

≡ I am sorry to have kept you waiting. お待たせて、すみません。

14 She was surprised at Paul **having failed** the exam. 268

彼女はポールがその試験に落ちたので驚いた。

1. 動名詞の完了形：〈**having** + 過去分詞〉の形で表す。

2. that 節を使って書き換えることができる。

13' → I am sorry that I kept [have kept] you waiting.

14' → She was surprised that Paul had failed the exam.

発展 動詞の完了形をとらない動詞

動詞の意味によっては、doing が（完了形にしなくても）述語動詞よりも「以前」の内容を表すことができる場合も多い。p.229を参照。

I remember seeing this picture somewhere before.

私はこの写真を以前どこかで見た覚えがある。

remember doing で「…したことを覚えている」という意味を表せるので、動名詞の完了形を使わずに表現する方が普通。ただし、時制をはっきりと示したい場合には完了形を用いる。

→ **I remember having seen** this picture somewhere before.

このような動詞としては他に、

forget（忘れる）、regret（後悔する）、recall（思い出す）、

recollect（思い出す）、admit（認める）、deny（否定する）などがある。



動名詞の完了形の否定：〈**not having** + 過去分詞〉の形を使う。ただし、never の場合は〈**having never** + 過去分詞〉、〈**never having** + 過去分詞〉のいずれも可。

My sister is proud of having never lied. ≡ **My sister is proud of never having lied.** 私の姉は決してうそをついたことがないことを誇りにしている。

注意しよう! × dream to do はダメ!



動詞 dream は dream of doing (…することを夢見る) という形で使われる。
dream to do は誤り。

○ He **dreams of** *becoming* a lawyer. 彼は弁護士になることを夢見ている。

× He dreams to become a lawyer.

注意しよう! propose の後は, 不定詞でも動名詞でも可

○ John **proposed** *revising* [*to revise*] the menu.

ジョンはメニューの見直しを提案した。

※次のように意味の違いを区別する場合もある。

propose to to …するつもりだ

propose doing …しようと提案する



8

動
名
詞

練習問題 4: カッコ内を埋める適切な語句を選択しなさい

→解答 p.228

① Tom tried to avoid () the work.

① doing ② to do

② Would you consider () with us?

① going ② to go

③ We expected () the game.

① winning ② to win



3 動名詞・不定詞を伴う動詞（意味が大きく変わらない場合）

21 He **likes** *traveling* [to travel] alone. 彼は一人旅をするのが好きだ。 275

22 John **started** *playing* [to play] the piano. ジョンはピアノを弾き始めた。 276

《1》「好き・嫌い」を表す動詞

hate doing [to do] …することを嫌う

like doing [to do] …することが好きだ

love doing [to do] …するのが大好きだ

prefer doing [to do] …するのを好む

「好き・嫌い」を表す動詞は不定詞・動名詞のいずれをも伴うことができる。

ただし、動名詞は現在あるいは過去の事実を語る場合が多く、不定詞は未来志向の傾向があるため、次のような違いを認める人もいる。

He **likes** *traveling* alone. 彼は（趣味として）一人旅をするのが好きだ。

He **likes** *to travel* alone.

彼は（今、これから）一人旅をしたいと思っている。

動名詞の事実志向は次の表現でもわかる。

Kate **loves** *being treated* like a queen.

ケイトは女王のように扱われるのが大好きだ。〔←実際、女王のように扱われている〕

Kate **loves** *to be treated* like a queen.

ケイトは女王のように扱われたがっている。〔←まだ女王のように扱われていない〕

注意しよう！ would like は不定詞で

would like の場合は、「…したい」という意味なので後には通例、不定詞が来る。

○ I **would like** *to start* now, please. よろしければ始めさせていただきます。

× I would like *starting* now, please.

【!】 like と違って、dislike の目的語は動名詞のみをとる。

○ I **dislike** *being taught* English by my sister.

私は姉に英語を教えられるのが嫌いだ。

× I dislike *to be taught* English by my sister.

発信のヒント Would you mind doing ...? の答え方に注意!

(1) “Would you mind opening the window?” “Of course not.”

「窓を開けていただけませんか」「もちろんです」

〈依頼〉に応じる場合：“Of course not.”

〈依頼〉を断る場合：“Yes.”

元々、mind doing で「…するのをいやに思う」という意味なので、「あなたは窓を開けるのをいやに思いますか」と尋ねていることになる。“Yes.” と答えると〈依頼〉を断ることになるので注意。

(2) “Would you mind **my** opening the window?”

「窓を開けてもかまいませんか」

〈許可〉する場合：“No, not at all. Go ahead.”

〈許可〉しない場合：“I’d rather you didn’t.”

動名詞の意味上の主語 pp.220-221 を参照。



Grammar in Writing 動名詞を主語にしてみよう・続

「…すること」という意味を表すのに、不定詞（名詞的用法）と動名詞の2つを使うことができます。英作文では、不定詞の方が to を付けるだけで語形変化がないので使いやすいと思う人もいるかもしれませんが。しかし文の出だしが次のようになっていた場合、読み手の受け取り方はまったく違います。

1a) To learn English ...

1b) Learning English ...

「英語を身につけること（は）…」という意味で解釈されるのは 1b) で、1a) は「英語を身につけるために（は）…」という副詞的用法として解釈されるのが普通です。もちろん文法的には次のように文が続くことはありえます。

1a') To learn English is to broaden your horizon.

英語を学ぶことは視野を広げること。〔英語を学べば視野が広がる〕

しかしこのような文は少数派です。



【!】 used to do ((今は違うが) かつて…した) と混同しないこと。こちらは, used to 全体で1つの助動詞として働くので, その後には動詞の原形が来ると考えればよい。

I **used to** *work* for a bank. 私はかつて銀行に勤めていた。

● **be [become] accustomed to doing** …するのに慣れている [慣れる]

元々, accustom A to B で「A を B に慣れさせる」という表現があり, それが受動態になったもの。したがって, この to は前置詞でありその後には動名詞が来る。

Zoo animals **are accustomed to** *being fed* by humans.

動物園の生き物は人間から餌をもらうことに慣れている。



He **became accustomed to** *working* on his own.

彼はひとりで働くことに慣れた。

〔この形では動名詞が使われるのが標準だが, まれに to + 動詞の原形も使われる。〕

● **be opposed to doing** …に反対している

元々, oppose A to B で「A を B に対立させる」という意味で, それが受動態になったもの。したがって, この to は前置詞でありその後には動名詞が来る。

We **are strongly opposed to** *banning* the use of smartphones in the school. 私たちは学校におけるスマホ使用の禁止に強く反対している。

● **come close to doing** あやうく…しそうになる

元々, come close to A で「A の近くにやって来る」という意味。

そこから「あやうく…しそうになる」という意味に派生したと考えればよい。

Michio **came close to** *falling off* the platform.

道夫はあやうくホームから転落しそうになった。

● **look forward to doing** …することを楽しみにしている

forward は副詞で「前の方へ」という意味なので, look forward で「前方を見る」という意味。そして, その前方がどこかを具体的に示したのが to 以下。したがって, この to は前置詞の to。当然, その後には名詞 (または動名詞) に当たるものが来る。

I'm **looking forward to** *hearing from* you.

あなたから便りが来るのを楽しみにしています。

cf. I am **looking forward to** *the next game*. 次の試合を楽しみにしています。

〔前置詞 to の後には, 名詞相当語句が来る。to + 動詞の原形と混同しないこと〕